

年末に向けてキャベツの競合産地調査及び品質検討会を実施

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

京浜市場では本県産キャベツの入荷が年末年始に本格化します。このため、2025年12月9日(火)に、京浜市場愛知県野菜連絡会キャベツ研究会会員(卸売会社12社)、JA愛知みなみ、JA豊橋、JAあいち経済連、本県東京事務所の職員が、競合産地である千葉県銚子市及び神奈川県三浦半島のキャベツの生育状況を調査しました。併せて、本県及び競合産地のキャベツの品質検討会も実施しました。

1 競合産地の調査

(1) 千葉県(銚子)

全体的にみて例年よりも収穫が進んでいました。

生産者からは、「2025年度作は、生育順調で病害虫の発生もない。ただし、12月上旬以降の気温低下により生育が停滞気味のため、年末にかけての出荷量は大きな増減がなく推移する見込み」とのことでした。



千葉県のキャベツほ場

(2) 神奈川県(三浦・横須賀)

当地区ではダイコンの収穫後にキャベツを定植するほ場が多いなか、ダイコンの収穫が遅れており、キャベツ苗の定植作業は12月上中旬が最盛期となる見込みでした。

JA職員からは、「年内のキャベツの収穫が遅れ気味で、例年のような出荷ピークに達していないため、年内の出荷量は少ない見通し」とのことでした。



神奈川県のキャベツほ場

2 品質検討会

葉の詰まり具合や固さの異なる冬系と春系キャベツについて、各産地の秀8玉/10kg・箱を無作為に抽出して調査しました。

(1) 冬系キャベツ

本県4産地、茨城県1産地の入荷物を調査しました。調査した中ではクレーム対象となるものは確認されず、総合的にみて、玉揃い、ボリューム、外葉等の品質は安定していました。重量はいずれの産地も規格をクリアしていましたが、乾燥と寒さの影響のためか、全体的に例年より軽い印象でした。また、一部の出荷物では、大きさが不揃いである、外葉が多い、という点が確認されました。



品質調査の様子

(2) 春系キャベツ

本県4産地、千葉県1産地、神奈川県1産地の入荷物を調査しました。調査した中ではクレーム対象となるものは確認されず、総合的にみて、玉揃い、ボリューム、外葉等の品質は安定していました。全体的には、外葉が若干多いのが目立ちました。

2回目の競合産地調査及び品質検討会は、本県産の入荷がピークとなり競合産地の春系の入荷量が急増する3月を前に行う予定です。